

2025年8月 マーケット概況

資産クラス	指数	5月	6月	7月	8月	当月リターン	年初来リターン
国内株式	日経平均株価	37965.10	40487.39	41069.82	42718.47	4.01%	7.08%
	グロース250	745.24	748.25	760.32	780.32	2.63%	21.13%
海外株式	NYダウ平均	42270.07	44094.77	44130.98	45544.88	3.20%	7.05%
	S&P500	5911.69	6204.95	6339.39	6460.26	1.91%	9.84%
	NASDAQ総合	19113.76	20369.77	21122.45	21455.55	1.58%	11.11%
	MSCI EUROPE	2370.53	2416.91	2372.25	2449.22	3.24%	22.28%
新興国株式	上海総合指数	3347.490	3444.425	3573.208	3857.927	7.97%	15.10%
	SENSEX	81451.01	83606.46	81185.58	79809.55	-1.69%	2.14%
海外金利	米政策金利 (FF金利)	4.50	4.50	4.50	4.50	-	-
	米国債10年	4.4180	4.2260	4.3600	4.2260	-	-
国内金利	政策金利 (無担保コール)	0.476	0.477	0.478	0.477	-	-
	10年物国債	1.5090	1.4310	1.5530	1.6030	-	-
外国為替 (対円)	米ドル	144.04	144.01	150.74	147.20	-2.35%	-6.35%
	ユーロ	163.44	169.73	172.07	171.78	-0.17%	5.56%
コモディティ	WTI (原油先物)	60.79	65.11	69.26	64.01	-7.58%	-10.75%
	NY金 (先物)	3315.4	3307.7	3348.6	3516.1	5.00%	33.14%
不動産	東証REIT	1736.74	1778.87	1859.19	1917.89	3.16%	16.03%
ヘッジファンド	HFRX指数	1503.43	1519.96	1528.62	1545.80	1.12%	4.13%

データ出所 : Refinitiv

【 8月の金融市場 】

8月の日本株式市場は、米国株安の影響で大幅安でのスタートでしたが、その後は日経平均で3500円幅を超える急上昇となりました。その間8月12日には1年1カ月ぶりに史上最高値を更新しています。外部環境の落ち着きと外国人買いなど好需給が背景となりました。月末にかけてやや伸び悩みましたが、月間騰落率は+4.0%となりました。TOPIXは、鉄鋼・非鉄・不動産・銀行セクターなどバリュー銘柄が人気化したため+4.9%と日経平均を上回る上昇となりました。NT倍率は先月に続き低下しています。東証グロース250指数は+2.6%と2カ月連続の小幅上昇となりました。

米国株式市場は、これまで相場をけん引してきたAI関連株が利益確定売りで軟調となりましたが、パウエル議長の利下げ示唆発言などで出遅れ株が物色されました。22日には最高値を更新しています。NYダウの月間上昇率は+3.2%となりました。ナスダックも堅調な値動きで続伸でしたが1.6%の上昇に留まりました。

米国10年債金利は、労働指標の悪化を受けて月初に大きく低下しましたが、その後はインフレへの警戒感から再び方向感のない展開となりました。

ドル円相場は、米国政策金利の引き下げ期待から7月末の150円台に対し1日で3円幅の急激な円高のスタートとなりました。その後は月間を通して概ね147円台での小幅保ち合い相場が続きました。

大阪金先物は、中心限月（'26年6月限）で16000円を挟んだ小動きとなりましたが、月末にかけては国際金価格の上昇を受けてじり高となりました。

【 今後の見通し 】

日本株は、9月になっても日経平均が新高値を更新するなど堅調な相場が続いています。米国でもNYダウとナスダックが最高値を更新し世界的にリスクオンの様相になっています。FRBにも攻撃を強めるトランプ大統領の強引さは相変わらずですが、市場の反応を見る限りトランプリスクは明らかに後退しています。むしろ、建前論で覆われた従来の不明朗さよりも、単純明快な本音の情報発信を良しとしている感さえあります。狙い通りかは別にして、株式市場を意識するトランプ大統領にとっては好都合の流れです。気を良くしてトランプ流がさらにヒートアップする可能性があります。リスクを過大評価すべきではないでしょう。

足元米国の景気・インフレ指標に明確なトレンドが見られませんが、雇用統計に悪化傾向が見られ、ジャクソンホールでのパウエル発言から9月の利下げはほぼ織り込まれているようです。ただ、今後の利下げペースについては全く不透明です。パウエル議長はかつて、1970年代にFRB議長を務めたアーサー・バーンズ氏が当時のニクソン大統領の意に沿ってインフレの芽が残る中、緩和策を繰り返した後の大インフレ時代を招いた失敗について発言しています。利下げには慎重姿勢を続けるとみるのが妥当でしょう。1996年から1998年にも政策金利が現在のように方向感が定まらず高止まりした局面がありました。インフレ抑制のための利上げが'95年1月に6.0%でピークアウトした後利下げに転じましたが'96年1月に5.25%まで低下してから'98年9月までほぼ5%台で横ばいに推移しました。この間S&P500は600から1200まで短時間で2倍の大幅上昇となっています。絶えず利下げ期待がくすぶる状況が株高の背景になった可能性があります。政策金利の見通しから現在も似た状況と言えなくもありません。当時は'98年8月のルーブル危機で一旦20%安の調整が入りましたが、利下げ効果もあってその後のITバブルにつながる流れとなりました。金利が安定的に高止まりしている状況は穏やかなリスクオンが持続する背景になり得ると考えます。必ずしも市場が期待する継続的利下げが株価上昇の条件ではないでしょう。

日本では9月に入り一気に政局動向が市場の関心事になってきました。新政権への期待が先行する形ですが、背景としては外国人買いと自社株買いによる好需給が大きいとみています。アベノミクス以降の平均値に対して現在のPER17~18倍台が割高であるとの見方があります。しかし、この基準は恒常的ではなく、すでに水準訂正して次のステージに入っている可能性があります。インフレ時代に加え、物言う株主が市場で安く買い集めた株をPER20倍~30倍の高値で第三者に譲渡する成功事例が相次いでいます。20倍前後に平均値が上方修正されても違和感はありません。米国ではすでにS&P500で2010年代の10倍台から20倍台にシフトしています。日本でも今期の利益予想に大きな上振れが無くとも株価の上値余地は残されているのではないのでしょうか。

9月の米国株はややパフォーマンスが悪い傾向があり、もたつく局面も考えられます。高配当と株主還元銘柄の押し目買いが基本戦略でしょう。9-10月の日経平均の予想レンジは42000円~45000円です。

【 8月のかぶオプ（個別株オプション） 】

大阪取引所における取引ランキング（出典：大阪取引所）

かぶオプ取引金額ランキング

2025年8月

[想定元本ベース,円]

コード	対象株券	MM対象	ランク	取引金額
1321	NEXT FUNDS 日経225連動型上場投信	○	★ 1	7,088,858,500
9984	ソフトバンクグループ	○	★ 2	6,485,850,000
8306	三菱UFJフィナンシャル・グループ	○	★ 3	5,680,000,000
7203	トヨタ自動車	○	★ 4	5,399,700,000
8035	東京エレクトロン	○	★ 5	3,176,625,000
7270	S U B A R U	-	★ 6	2,647,400,000
7974	任天堂	○	★ 7	2,502,625,000
6920	レーザーテック	○	☆ 8	1,006,525,000
9101	日本郵船	○	☆ 9	983,695,000
5401	日本製鉄	○	☆ 10	891,760,000
8058	三菱商事	○	☆ 11	744,090,000
9983	ファーストリテイリング	○	☆ 12	615,200,000
8113	ユニ・チャーム	-	☆ 13	472,500,000
1306	NEXT FUNDS TOPIX連動型上場投信	○	☆ 14	472,442,000
6861	キーエンス	○	☆ 15	385,000,000
7011	三菱重工業	○	☆ 16	117,030,000
5801	古河電気工業	-	☆ 17	51,000,000
5802	住友電気工業	-	☆ 18	36,275,000
7013	I H I	-	☆ 19	29,000,000
4568	第一三共	-	☆ 20	14,800,000
5108	ブリヂストン	-	☆ 21	14,000,000
6594	ニテック	-	☆ 22	4,080,000
6758	ソニーグループ	○	☆ 23	2,940,000
6367	ダイキン工業	○	☆ 24	1,700,000
8053	住友商事	-	☆ 25	1,200,000
8411	みずほフィナンシャルグループ	-	☆ 26	1,000,000
4704	トレンドマイクロ	-	☆ 27	850,000
8031	三井物産	-	☆ 28	700,000
6301	小松製作所	○	☆ 29	500,000
2914	日本たばこ産業	○	☆ 30	460,000
8002	丸紅	-	☆ 31	340,000
7201	日産自動車	-	☆ 32	325,000
6762	T D K	-	☆ 33	160,000

※表中の「MM対象」はマーケット・メイク銘柄

日経平均株価が8月前半に40,290円から43,741円（終値ベース）まで大きく上昇する局面があり、個別銘柄も動揺しました。かぶオプでは日経225ETF、日本製鉄、トヨタ、三菱商事、ソフトバンクGなどのボラティリティが上昇しました。三菱UFJの株価は前半大きく上昇した後は持ち合いの動きでしたが、オプションの取引は多く、建玉を増やしました。

9月1日より新たにマーケット・メイク銘柄が増えて32銘柄になりました。馴染みの有る銘柄ばかりだと思います。使い勝手が良くなったかぶオプを是非ご利用ください。

コード	銘柄	コード	銘柄
1306	NEXT FUNDS TOPIX連動型上場投信	7267	本田技研工業 ※
1321	NEXT FUNDS 日経225連動型上場投信	7741	HOYA ※
2914	日本たばこ産業 ※	7974	任天堂
4063	信越化学工業 ※	8001	伊藤忠商事 ※
4502	武田薬品工業 ※	8035	東京エレクトロン
5401	日本製鉄	8058	三菱商事
6098	リクルートホールディングス ※	8306	三菱UFJフィナンシャル・グループ
6301	小松製作所 ※	8316	三井住友フィナンシャルグループ ※
6367	ダイキン工業 ※	8604	野村ホールディングス ※
6501	日立製作所 ※	8766	東京海上ホールディングス ※
6752	パナソニックホールディングス ※	8801	三井不動産 ※
6758	ソニーグループ ※	9101	日本郵船
6861	キーエンス ※	9107	川崎汽船 ※
6920	レーザーテック	9432	NTT ※
7011	三菱重工業 ※	9983	ファーストリテイリング
7203	トヨタ自動車	9984	ソフトバンクグループ

※印：9月1日より、マーケット・メイク対象として追加となった銘柄です。

<注意>かぶオプの対象銘柄は9月5日現在229銘柄です。

現在、光世証券ではかぶオプに関するキャンペーンを実施しています。

口座を開設し、初回取引から1か月間の取引手数料を全額キャッシュバックいたします。

また、2025年4月以降にお取引のないお客様も対象となります。

ヘッジファンドインデックスと主な戦略別の運用成績（月別騰落率）

	2025年							年初来
	2月	3月	4月	5月	6月	7月		
ヘッジファンド・インデックス	-0.75%	-0.43%	1.17%	1.10%	0.57%	1.12%	4.13%	
株式ロング・ショート	-1.33%	0.00%	2.63%	1.43%	0.79%	1.49%	6.71%	
イベント・ドリブン	-0.12%	0.00%	1.09%	0.71%	0.72%	0.71%	4.30%	
レラティブ・バリュー	-0.45%	0.18%	0.61%	1.07%	0.40%	0.63%	4.11%	
マクロ	-1.33%	-3.01%	-0.44%	1.25%	0.25%	1.99%	-0.88%	
CTA	-1.17%	-4.49%	-1.39%	1.04%	-0.12%	2.83%	-4.15%	

データ出所：ヘッジファンド・リサーチ社

9月期末配当・優待銘柄

先月8月の日経平均株価は、月間で1,648円上昇し5カ月連続の上げとなりました。19日取引時間中には史上最高値43,876円も付けました。各国株式と比べ、相対的に出遅れていた日本株に、米国の利下げ期待などを手掛かりとして海外資金が流入したと考えられます。

そんな中、今月9月末（権利付き＝26日）は多くの会社が決算を迎える事から、配当取りが注目されます。先の決算発表で、想定以上に保守的な見通しや下方修正により、安値圏であったり割安なまま放置されていたりする銘柄も多いです。

それ故、権利落ち後でも配当や優待相当額よりも株価が下落しない事や、戻りが早い事が期待されます。株式投資において、最大の醍醐味は安く買って高く売る（高く売って安く買う）キャピタルゲインである事は事実ではありますが、インカムゲインによる安定的で継続的な運用もまた魅力的であると思います。

これを機に、ご自身のポートフォリオを見直されても良いのではないのでしょうか。

注目の高配当銘柄

コード	銘柄名	株価(円)	配当利回り(%)
2296	伊藤ハム米久 HD	5700	5.61
7261	マツダ	1022	5.38
9107	川崎汽船	2271.5	5.28
4503	アステラス製薬	1643.5	4.74
7202	いすゞ自動車	1954.5	4.7
4528	小野薬品工業	1703	4.69
5938	LIXIL	1929	4.66
1719	安藤ハザマ	1723	4.64
5021	コスモエネルギーHD	7177	4.59
4502	武田薬品工業	4469	4.47
8725	MS&AD インシュアランス G	3461	4.47
3861	王子 HD	812.2	4.43
9076	セイノーHD	2300	4.43
4202	ダイセル	1369	4.38
9101	日本郵船	5357	4.38
5406	神戸製鋼所	1830	4.37
6471	日本精工	778	4.37
4613	関西ペイント	2525	4.35
1878	大東建託	15870	4.31
8572	アコム	466	4.29

※配当利回りは2025年9月1日終値現在のQUICKにおけるデータベースに基づく。
なお、時価総額が3,000億円以上の銘柄を選出。

注目の優待銘柄

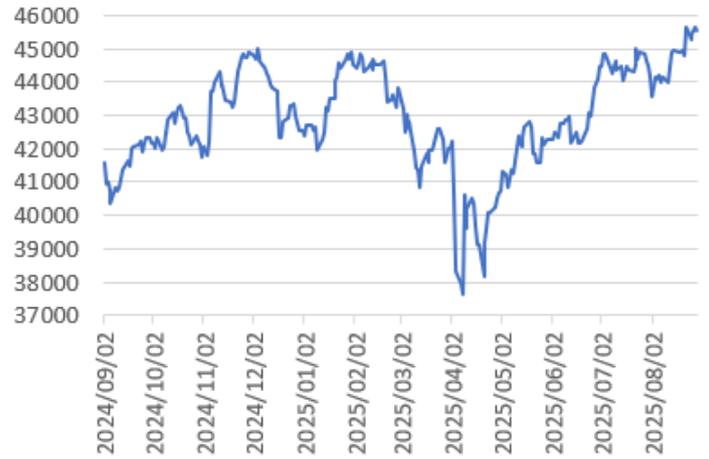
コード	銘柄略称	9/3 終値(円)	権利月	優待内容
2053	中部飼料	1739	9月	500株で自社配合肥料「米太郎」を使用育てた富山県産コシヒカリ3kg
2281	プリマハム	2414	9月	200株で3,000円相当の自社製品
2432	ディー・エヌ・エー	2239	3月・9月	100株でプロ野球・バスケット観戦チケット
2874	横浜冷凍	1179	9月	100株で株主様向けECサイトでの購入権
3289	東急不動産HD	1216	3月・9月	100株で自社施設で使える優待宿泊割引券
3392	デリカフーズ	831	9月	400株で3,000円相当のオリジナル青果ボックス
7278	エクセディ	5330	9月	100株継続保有1年以上で3,000円相当のカタログギフト
7593	VTホールディングス	490	9月	100株で車購入時優待券(30,000円)1枚、レンタカー20%割引券等
7952	河合楽器製作所	2528	3月・9月	100株で自社主催イベント(工場見学またはコンサート)無料招待
8022	ミズノ	2571	3月・9月	1000株で株主優待券(20%割引)、大阪マラソン抽選券等
8219	青山商事	2507	3月・9月	100株で自社店舗で利用可能な割引券(20%割引券)3枚
9023	東京地下鉄	1736.5	3月・9月	200株で東京メトロ全線で使える回数券3枚
9042	阪急阪神HD	4450	3月・9月	100株で阪急・阪神共通乗車2回カード1枚
9605	東映	5230	3月・9月	500株で優待券(1冊6枚綴り)
9831	ヤマダHD	473.9	9月	100株で店舗で使える優待買物割引券1000円分

※どの優待内容も原則、最小単位のものを表示しています。
そのため、株数によっては優待内容が異なる場合があります。

日経平均



NYダウ



米国10年債利回り 日本10年債利回り



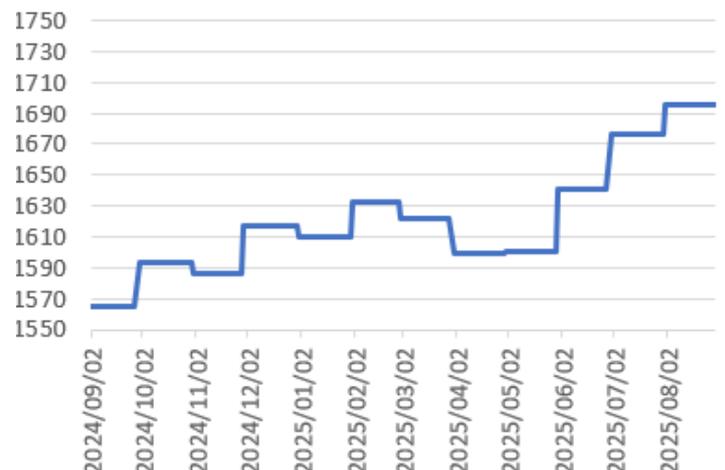
ドル円 ユーロ円



日経VI指数



Bloomberg全ヘッジファンド指数



<執筆者>

株式・債券・為替

… 西川 雅博

かぶオプ（個別株オプション）
ヘッジファンド運用成績

… 樋爪 功次

そうだったのか！「知って納得、証券投資」 Vol. 194
9月期末配当・優待銘柄

… 金井 良記

<編集責任者>

樋爪 功次

本資料は、情報提供のみを目的として作成したもので、いかなる有価証券等の売買の勧誘を目的としたものではありません。また、一般的あるいは特定の投資助言を行うものでもありません。本資料は、信頼できると判断した情報源から入手した情報・データ等をもとに作成しておりますが、これらの情報・データ等また本資料の内容の正確性、適時性、完全性等を保証するものではありません。情報が不完全な場合または要約されている場合もあります。本資料に掲載されたデータ・統計等のうち作成者・出所が明記されていないものは、当社により作成されたものです。本資料に掲載された見解や予測は、本資料作成時のものであり予告なしに変更されます。過去の実績は将来の成果を予測あるいは保証するものではありません。
本資料の表・グラフのデータ出所：REFINITIV、Bloomberg 他

K 光世証券

金融商品取引業者 近畿財務局長（金商）第14号 加入協会：日本証券業協会

本店 〒541-0041 大阪府大阪市中央区北浜2-1-10 TEL：06-6209-0821

東京店 〒103-0026 東京都中央区日本橋兜町9-9 TEL：03-3667-7721

